

生活・文化拠点の課題解決に向けて

1 経過

令和元年度庁内検討プロジェクトにおいて整理した、事業予定地である「生活・文化拠点」エリアが抱える課題について、施設等の所管課や関係部署を中心に課題解決に向けた検討を行いました。

2 令和2年度の検討内容及びその結果

(1) 奥田公園及び同駐車場の活用等

検討結果の概要	<ul style="list-style-type: none">● 奥田公園は遊具を除き改修が必要な状況ではない。● 奥田公園駐車場は設備機器等が老朽化しており、運営を中長期的に継続するなら改修する必要がある。● 市民会館等を再整備するに当たっては、奥田公園と物理的一体性を意識して整備していくことが相互の魅力向上に繋がる。● PPP/PFI 手法を導入した場合に市民会館等と併せた管理運営の可能性は、今後、民間企業等へのサウンディング調査等の結果を参考にしていく。● 再整備事業に併せて奥田公園駐車場を改修等していくか否かについては、駐車場の需要予測等を踏まえて引き続き検討していく。● 奥田公園及び同駐車場の活用に当たっては、運営・管理方法や都市計画変更等を検討する必要がある。
---------	--

(2) 浸水対策施設の整備

検討結果の概要	<ul style="list-style-type: none">● 市民会館周辺の地区は過去に度々内水氾濫（処理能力を超える降雨により排水不能となった雨水が地表に溢れ発生する浸水）が発生している区域である。● 現在、下水道総務課で策定作業を進めている「藤沢市雨水管理総合計画」に係る浸水リスク順位の整理において市内175ブロック（計画上の区分け）で1位であることが判明した。● この対策として、排水ポンプ場及び貯留管、導水管等の整備が必要で、その事業用地として4,000平方メートル（将来の建替え用地を含めると8,0
---------	--

	<p>00平方メートル) 規模の土地が必要になると考えられるため、実現の可能性を考慮すると生活・文化拠点の市有地が最適地である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浸水対策施設の整備に当たっては、新たに建設する市民会館等の供用開始時期に影響を与えないことを前提とするが、両施設の配置や工事の施工性等の面で連携していく必要がある。
--	---

(3) エネルギー関連施設の整備

<p>検討結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活・文化拠点エリア内での電力や熱の融通，省エネルギー施設の整備など，再整備事業の進捗に合わせたエネルギー対策について継続して検討していく。
----------------	--

(4) 旧近藤邸の活用

<p>検討結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国登録有形文化財であること，「旧近藤邸を守る会」を中心に保存が要望されていること，倒壊に至るような危険性がないと思われることから，引き続き保存活用ができるよう検討していく。 ● 生活・文化拠点以外の場所に移築する選択肢はあるが，移転候補地の選定が困難であること，移築に多額の費用が必要となる可能性が高いことなどから，実現の可能性は極めて低いと考えられる。 ● PFI 等の手法により，生活・文化拠点内で移転（曳家）した上で，改修，維持管理，運営まで実施することが理想である。 ● 旧近藤邸を含めた PFI 事業等への参入可能性や官民のリスク分担等については，今後のサウンディング調査等でヒアリングしていく。 ● 民間資金等の活用による旧近藤邸の保存活用が難しい場合には，市民会館等との関係性を意識した公共機能の導入を検討していく。
----------------	---